

目 標 年 度
令和10年度

岡山県野菜農業振興計画

令和6年3月

岡 山 県
岡山県農業協同組合中央会
全国農業協同組合連合会岡山県本部

目次

○ 計画策定の趣旨	1
○ 岡山県野菜農業振興計画の概要	2
I 本県野菜を取り巻く情勢	
1 野菜を巡る全国的情勢	3
2 県産野菜の生産・出荷動向等	6
II 野菜生産振興方針	
基本方針 1 生産基盤とブランド・販売力の強化	8
基本方針 2 水田を活用した新たな産地の育成	8
基本方針 3 スマート農業による省力化及び高品質安定生産の推進	9
基本方針 4 産地を支える多様な担い手の確保・育成	9
その他野菜振興に必要な事項	
(1) 環境負荷低減への取組	10
(2) 国際水準GAP（農業生産工程管理）の導入推進	10
(3) 適正な土壌管理の推進	10
(4) 病害虫対策	10
(5) 気候変動対策	11
(6) 事業継続計画（BCP）の策定推進	11
(7) 各種共済制度への加入推進	11
(8) 鳥獣被害防止対策	11
(9) プラスチック資材の適正処理の推進	11
III 振興品目	12
1 重点品目	
2 基幹品目	
3 地域推進品目	
IV 生産目標	13
○ 品目別振興方針	14
○ 岡山県における野菜価格安定制度の概要	25
○ 本県の指定産地、特定産地一覧	26

○ 計画策定の趣旨

農林水産業を取り巻く環境は、人口減少に伴う国内市場の縮小や生産者の減少・高齢化等の課題に直面しているほか、国際情勢の不安定化等に伴う食料安全保障上のリスクの高まりにより、将来にわたって食料を安定的に供給していくことが厳しい状況となっている。

こうした中、本県においては、晴れの国おかやまの恵まれた自然条件と高度な栽培技術を生かし、全国に誇る農林水産物が産出されており、ブランド力強化や担い手の確保・育成、供給力の強化等により、儲かる産業としての農林水産業の確立を進めているところである。

特に野菜については、なすやトマトをはじめ、アスパラガスやいちごなど多様な野菜産地が形成されており、その位置づけはますます重要なものとなる一方で、生産者の高齢化や後継者不足のほか、豪雨・高温等の異常気象、燃料・肥料等資材費や物流問題による流通経費の高騰など様々な課題を抱えている。

このため、これまで培ってきた高い技術のあるなす、トマト等の県産野菜のさらなるブランド強化を図るとともに、水田を活用した新たな産地の育成やスマート農業による省力化及び高品質安定生産の推進、産地を支える多様な担い手の確保・育成の取組等により、産地の体質強化と供給力強化を図り、儲かる野菜農業を振興していくことが必要である。

当該計画は、本県の特徴を生かし、将来に向けて活力ある野菜農業を振興するため、県政推進の羅針盤である「第3次晴れの国おかやま生き活きプラン」及び本県農林水産業の目指すべき方向と、それを実現するための施策などについてまとめた「21 おかやま農林水産プラン」の目標を達成するための実践計画として、令和10年度までに取り組む野菜に関する振興方針を示したものであり、関係機関等と連携して、高品質な野菜を安定的に生産する力強い産地を育成していくものとする。



© 岡山県「ももち」

岡山県野菜農業振興計画の概要（目標：令和10年度）



© 岡山県「うらっち」

【計画期間】

令和6年度から令和10年度までの5年間

【振興品目】

重点品目

なす、トマト、アスパラガス、いちご、キャベツ、たまねぎ

基幹品目

きゅうり、はくさい、レタス、ねぎ、だいこん

地域推進品目

市町村等が地域の推進品目として位置づけを行うなど、地域が一体となって振興する品目

【振興方針】

基本方針1 生産基盤とブランド・販売力の強化

- 生産基盤の強化
- ブランド力の強化
- 産地間連携による販売力向上

基本方針2 水田を活用した新たな産地の育成

- 高収益作物の作付推進
- 加工・業務用野菜の生産拡大

基本方針3 スマート農業による省力化及び高品質安定生産の推進

- 機械化等による省力化の推進
- 高品質安定生産の推進

基本方針4 産地を支える多様な担い手の確保・育成

- 新規就農者等の確保・育成
- 集落営農や企業等の取組支援
- 多様な労働力の活用



I 本県野菜を取り巻く情勢

1 野菜を巡る全国的情勢

(1) 野菜の供給状況等

令和3年の野菜の農業産出額は2兆1,467億円となっており、日本の農業総産出額の約1/4を占めている。(図1)

野菜の供給状況は、国内生産量が約8割、輸入量が約2割となっている。(図2)

国内生産量に占める割合の大きい品目は、キャベツ、たまねぎ、だいこんとなっており、この3品目で国内生産量の約4割を占めている。

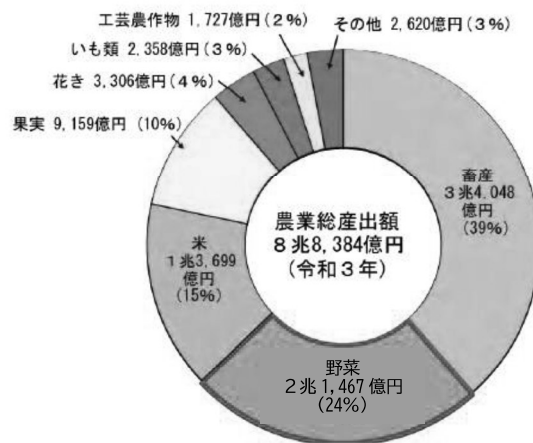


図1 日本の農業総産出額 (令和3年)
※「野菜をめぐる情勢 (令和5年7月)」
(農林水産省)

国内生産量				輸入量	
11,440千トン (79%)				2,987千トン (21%)	
キャベツ 1,434 千トン (13%)	たまねぎ 1,357 千トン (12%)	だいこん 1,254千 トン (11%)	その他 7,395千トン (65%)	生鮮品 679千 トン (23%)	加工品 2,308千トン (77%)

図2 野菜の供給状況 (令和2年)
※「野菜をめぐる情勢 (令和5年7月)」 (農林水産省)

近年、全国の野菜の販売農家数は大幅に減少しており、令和2年は27万戸と5年前に比べ約3割減少している。(図3)

令和2年の作付面積は39万ha、生産量は1,144万トンとなっており、近年では、作付面積は微減、生産量は横ばい傾向で推移している。(図4)

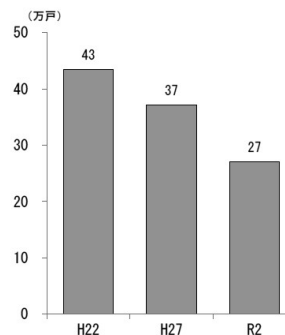


図3 全国の野菜の販売農家数の推移
※「野菜をめぐる情勢 (令和5年7月)」
(農林水産省)

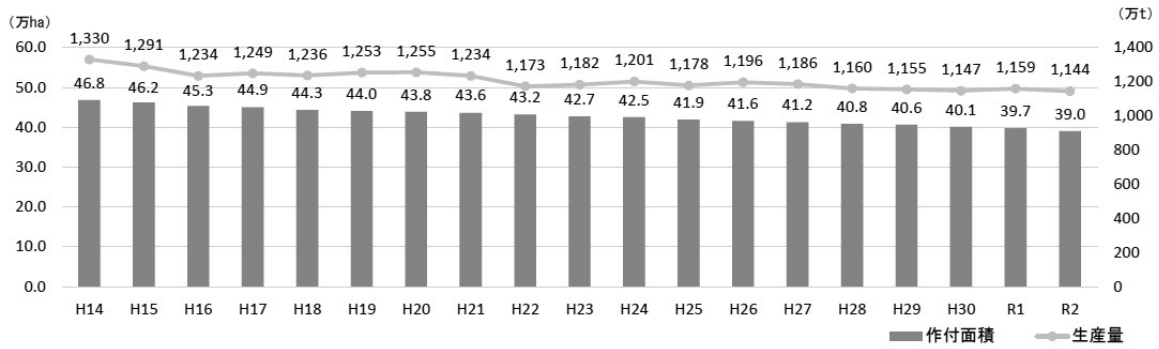


図4 野菜の作付面積及び国内生産量の推移

※「野菜をめぐる情勢（令和5年7月）」（農林水産省）

(2) 野菜の消費動向

主要農産物の消費動向をみると、近年、野菜の消費は減少傾向となっている。（図5）

家庭での生鮮野菜の購入額の減少傾向が続いている一方で、サラダをはじめとした加工調理品の消費が増加しており、30～60歳代で簡便化志向の割合が高まっている。（図6）

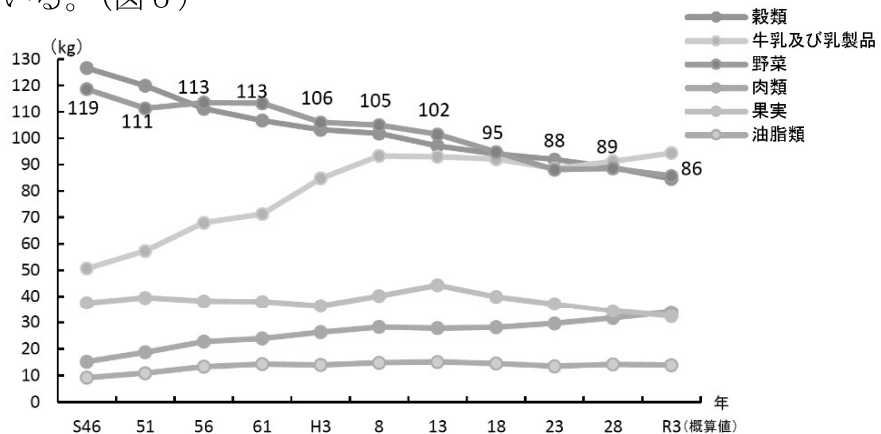


図5 主要農産物の1人1年当たりの消費動向

※「野菜をめぐる情勢（令和5年7月）」（農林水産省）

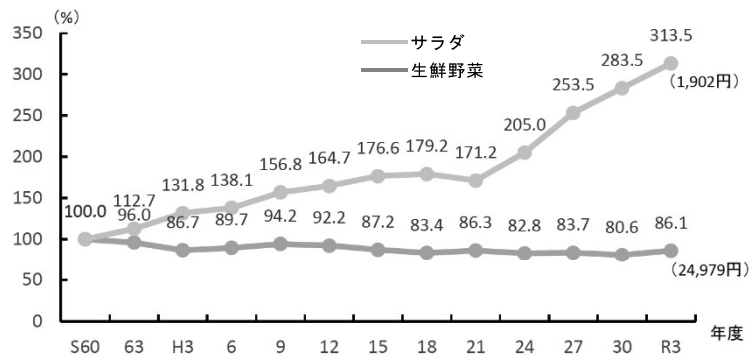


図6 生鮮野菜及びサラダの1人1年当たりの購入額の推移
（昭和60年=100とした場合）

※「野菜をめぐる情勢（令和5年7月）」（農林水産省）

(3) 野菜の用途別仕向け量の推移

食の外部化を背景に、野菜の需要は家計消費から加工・業務用に徐々にシフトし、近年では加工・業務用が全体の過半を占める。(図7)

(4) 野菜の輸入動向

野菜の輸入量全体は近年減少傾向にあり、令和4年では生鮮品は70万トン、加工品は201万トンとなっている。(図8)

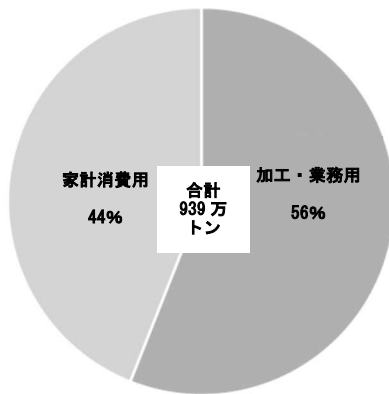


図7 野菜出荷量における家計消費量と加工・業務用の割合(令和2年)
※「野菜をめぐる情勢(令和5年7月)」
(農林水産省)

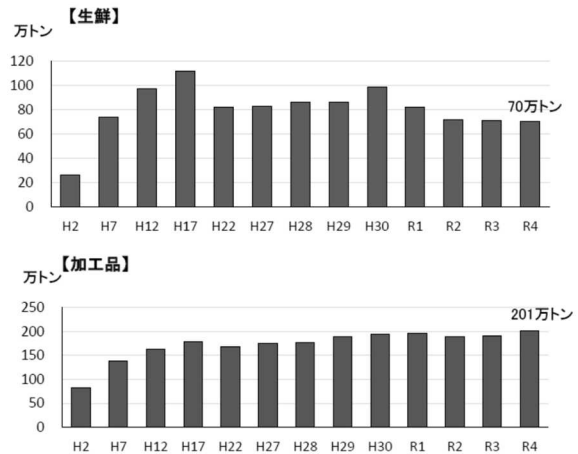


図8 野菜の輸入量の推移(生鮮・加工品)
※「野菜をめぐる情勢(令和5年7月)」
(農林水産省)

(5) 生産資材の価格動向

農業生産資材は、肥料では輸入原料価格の上昇による肥料の価格上昇、光熱動力では原油価格の上昇に伴い価格が高止まりしている。(図9)

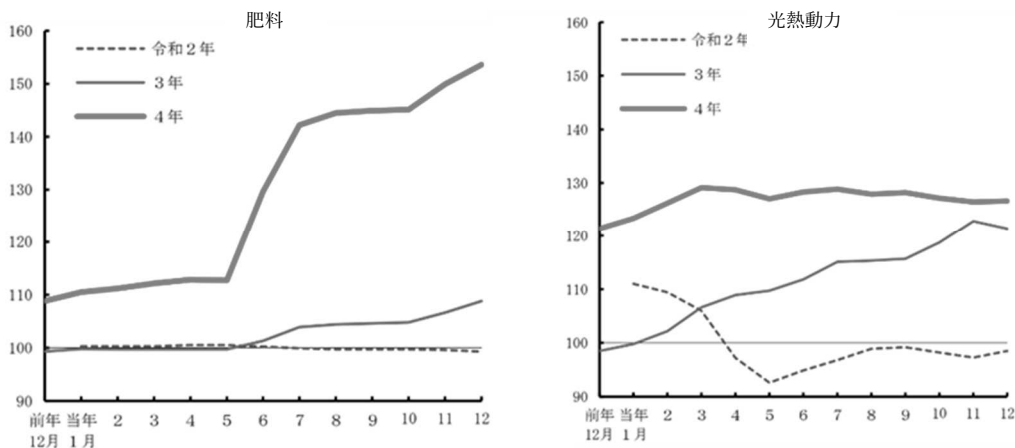


図9 月別価格指数(直近3年間)(令和2年平均=100)
※「令和4年農業物価指数」(農林水産省)

2 県産野菜の生産・出荷動向等

(1) 生産動向

本県は、北は中国山地から南は瀬戸内海沿岸までの多様で恵まれた自然条件と、高度な栽培技術を生かした高品質な園芸農産物の産地として全国的に知られ、令和3年の農業産出額に占める野菜の割合は14%で、畜産、果実、米に次ぐ4位となっている。(図10)

野菜のうち農業産出額が大きいトマトやなすについて、近年、作付面積は現状維持で推移しているが、野菜全体では、農業従事者の高齢化や労働力不足等の影響から、作付面積、生産量ともに減少傾向である。(図11)

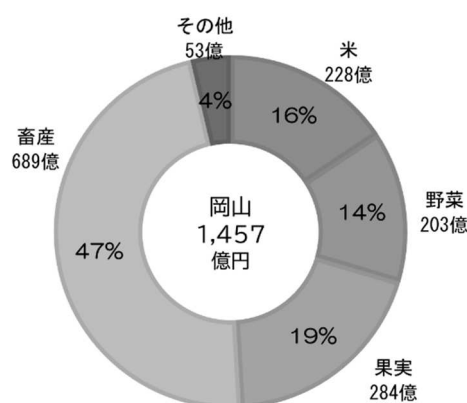


図10 農業産出額 (令和3年)

※農林水産省統計部

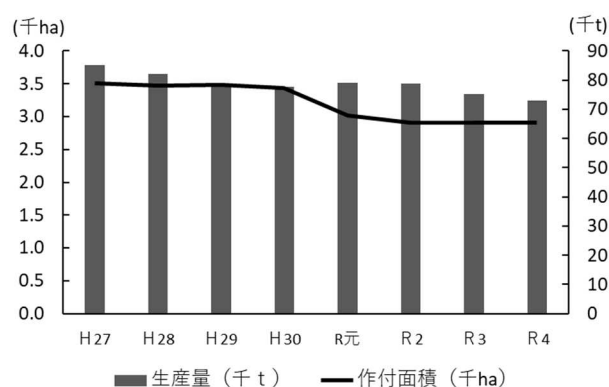


図11 県産野菜の作付面積、生産量の推移

※農林水産省統計部

(2) 出荷動向

県産野菜の多くは、主に京阪神市場や県内市場に出荷されている。(図12)

なお、いちごは、ブランド化を進めている「晴苺」について、首都圏への出荷量増大を目指している。

各市場からは、高品質な野菜を出荷する産地として高い評価を受けているが、一方で市場が求める量を十分供給できていない状況である。

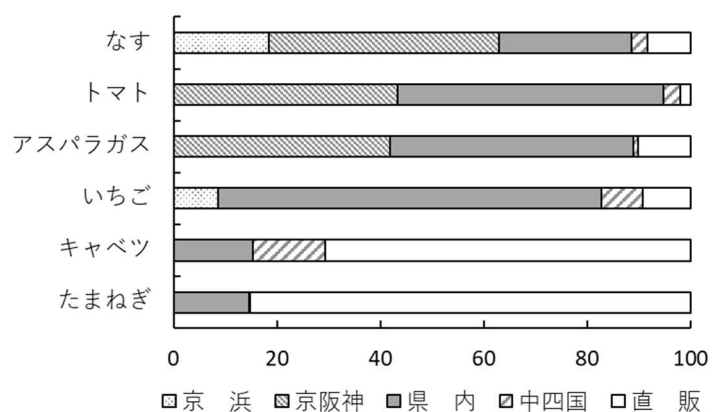


図12 県産野菜の出荷先地域別割合 (令和4年)

※全農岡山県本部

(3) 野菜生産における担い手確保の状況

本県の新規就農者は、直近5年間（H30～R4）で年平均162人と県外からの新規参入者も含め一定数確保できており、うち約3割が野菜で就農している。（図13、14）

一方で、本県の基幹的農業従事者は年々減少し、令和2年には3万人を下回るとともに、平均年齢は71.5歳と全国平均67.8歳を超えており、農家数の減少と高齢化の進展が顕著となっている。主要な野菜産地においても同様の状況となっている。（図15）

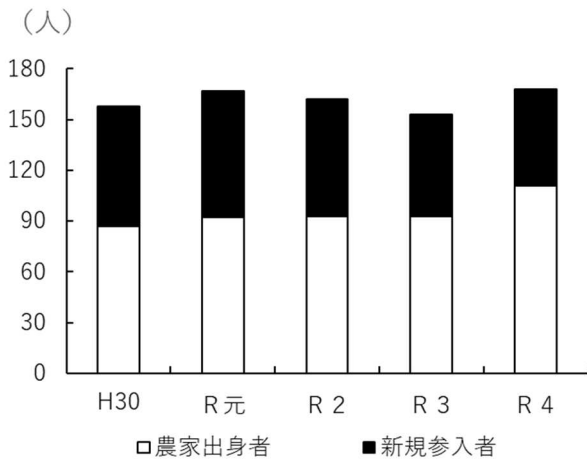


図13 岡山県の新規就農者数の推移
※農産課調べ

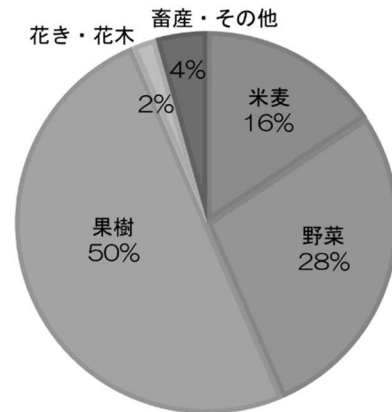


図14 岡山県の新規就農者の品目別割合
※農産課調べ(H30～R4)

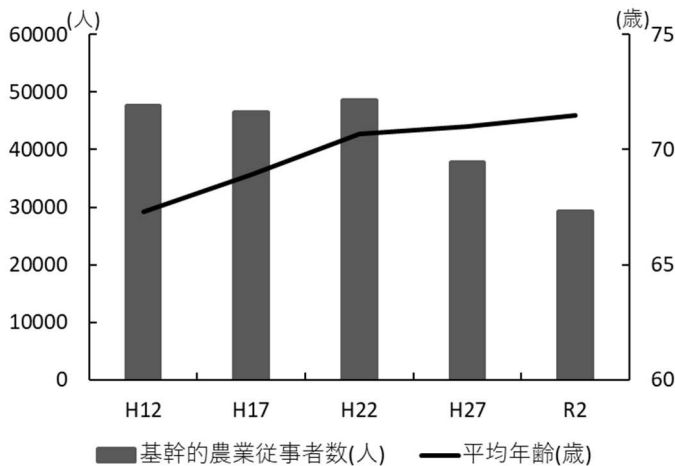


図15 岡山県における基幹的農業従事者数(人)、平均年齢(歳)の推移
※農林業センサス
(H27以降は算出方法が異なるため、H22以前と単純比較はできない)

Ⅱ 野菜生産振興方針

基本方針1 生産基盤とブランド・販売力の強化

(1) 生産基盤の強化

- ・高品質な野菜を安定的に生産する産地の維持・拡大を図るため、栽培施設や省力化機械の導入等により生産基盤の強化を進める。

(2) ブランド力の強化

- ・多様化する実需者ニーズに対応するため、迅速かつ的確なニーズの把握に努めるとともに、収量・品質の向上などの技術開発を進め、実需者に求められるブランド力の高い野菜の生産を推進する。
- ・県産野菜を代表するなすやトマト、アスパラガス等、既存産地の収益力をより一層強化するため、消費宣伝や産地PRによるブランド力の向上に取り組む。
- ・いちごは、重点的に推進している「晴苺」について、首都圏への出荷量増大を図るとともに、新品種の育成や長期安定出荷体制の整備を進め、もも、ぶどうと合わせて年間を通じた「くだもの王国おかやま」のブランド確立につなげる。

(3) 産地間連携による販売力向上

- ・出荷物の規格の統一や集約による安定したロットの確保、また、産地リレーによる長期安定出荷など、産地間連携を進めることで県産野菜の販売力の向上を図る。
- ・集荷・選果・予冷施設の整備等により、物流の効率化を図る。

基本方針2 水田を活用した新たな産地の育成

(1) 高収益作物の作付推進

- ・水田の排水対策やほ場整備により、畑地化を推進し、なすやトマト、アスパラガス等の高収益作物への作付け転換を進め、新たな産地の育成を図る。

(2) 加工・業務用野菜の生産拡大

- ・キャベツやたまねぎ等の加工・業務用野菜について、生産拡大への期待が高まっていることから、水田転換畑での作付けを推進し、産地リレーによる出荷期間の拡大を目指すとともに、播種から収穫、調整などの機械化一貫体系による低コスト・省力化を進め、大規模産地の育成を図る。

基本方針3 スマート農業による省力化及び高品質安定生産の推進

- (1) 機械化等による省力化の推進
 - ・ロボット技術や情報通信技術（ICT）等の先端技術を活用したスマート農業を推進し、作業の自動化・機械化による省力化を進める。
- (2) 高品質安定生産の推進
 - ・環境モニタリング装置によるデータの利活用など、栽培の「見える化」を進め、環境制御技術の確立・普及による高品質な野菜の安定生産を推進する。

基本方針4 産地を支える多様な担い手の確保・育成

- (1) 新規就農者等の確保・育成
 - ・就農ポータルサイトを軸とした就農希望者に対する情報発信や、県内外での就農相談会、産地での農業実務研修や就農講座等の実施による新規就農者の確保に取り組むとともに、青少年農林文化センター三徳園での栽培管理や農業機械の研修などにより新規栽培者の育成を図る。
 - ・早期経営確立に向けた補助制度や、農業普及指導センターによる重点指導等により、新規就農者等の育成を支援する。
- (2) 集落営農や企業等の取組支援
 - ・集落営農法人や企業等において収益性の高い野菜品目の導入を推進し、栽培技術の習得や営農計画の策定等を進め、大規模で安定的な野菜生産を支援する。
- (3) 多様な労働力の活用
 - ・農福連携の取組により、障がいのある人が農業の新たな担い手や貴重な働き手となるよう支援する。
 - ・農作業を受託する団体との連携や、アプリを通じた短期アルバイト、外国人材の活用等により、人材不足の解消に取り組む。

その他野菜振興に必要な事項

(1) 環境負荷低減への取組

岡山県みどりの食料システム戦略基本計画及び岡山県有機農業推進計画に基づき、化学肥料や農薬（天敵を除く）を一切使用しない「おかやま有機無農薬農産物」や化学肥料・農薬の使用を低減する取組を広げるとともに、農産物の安全性確保につながる国際水準GAP（農業生産工程管理）の普及や化学肥料・農薬の適正使用の徹底等を通じて環境保全型農業を推進する。

(2) 国際水準GAP（農業生産工程管理）の導入推進

GAPは、農産物の安全性の向上、水質や土壌などの環境保全、農作業事故防止、農業経営の改善等に総合的に取り組むものであり、消費者や流通販売業者等の信頼確保が期待できる。本県野菜産地では、これまで、トマト、アスパラガス、いちご、きゅうり等の産地が県版GAPに取り組んできたが、国際水準GAPへのステップアップが求められていることから、今後は、関係機関と連携して未導入の産地も含め、国際水準GAPの導入を目指すとともに、産地を支援できる指導者を育成し、情報提供や技術的な助言を行う。

また、特に加工・業務用の契約キャベツ、たまねぎにおいては、農業団体と連携し、出荷先の動向を踏まえ、団体認証の取得を推進する。

(3) 適正な土壌管理の推進

肥料については、その原料の多くを海外に依存しており、国際市況の影響を受けやすく、肥料価格高騰の主な要因となっている。このため、土壌診断を定期的に行い、適正な施肥設計による過剰な施肥を防止するとともに、堆肥等の活用による肥料コストの低減と土壌の物理性・化学性等の土壌環境を整えるための土づくりを適切に行うことにより、土壌の生産力の維持・向上を図る。

(4) 病害虫対策

農薬の適正使用の徹底や、県病害虫防除所から発出される病害虫発生予察情報等を活用した適期防除を推進するとともに、県総合防除計画の内容も踏まえ、天敵利用等を含むIPM技術の導入等による環境負荷を低減した病害虫防除技術の普及を図る。

(5) 気候変動対策

近年、常態化しつつある夏期の高温や集中豪雨、大型台風など、気候変動に起因する異常気象に対し、高温耐性のある新品種や対応技術の導入、タイムリーな気象及び技術対策情報の発信等により、収量・品質低下の防止を図る。

(6) 事業継続計画（BCP）の策定推進

自然災害などの緊急事態に遭遇した場合に、事業資産の損害を最小限にとどめ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするため、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを予め取り決めておくことが重要である。

このため、事業継続計画（BCP）の策定を推進し、日頃から自然災害等のリスクに対する備えの意識を高め、非常時の対応能力の向上を図る。

(7) 各種共済制度への加入推進

近年、集中豪雨や台風などの自然災害が多発しており、野菜生産へも大きな影響を与えている。自然災害や価格下落等の経営リスクの軽減を図るため、収入保険制度や農業共済、価格安定制度など、各種セーフティネット対策等への加入を促進する。

(8) 鳥獣被害防止対策

野生鳥獣による農林水産被害は依然として高い水準で推移しており、県内の野菜産地でも被害が発生している。

このため、市町村が策定する被害防止計画に基づき、関係機関が一体となって、地域の実状に応じた被害防止対策を総合的に推進する。

(9) プラスチック資材の適正処理の推進

農業用使用済みプラスチック資材の処理については、環境負荷の低減、資源の有効利用等の観点から、廃棄物の発生を抑制するとともに、再利用の取組を推進する。

Ⅲ 振興品目

1 重点品目

なす、トマト、アスパラガス、いちご、キャベツ、たまねぎ

県内及び県外（京阪神市場等）で高く評価され、県域で生産振興を強化している基幹的な品目のうち、なす、トマト、アスパラガス、いちご、キャベツ、たまねぎの6品目を重点品目とする。

特にいちごは、令和元年産から重点的に推進している「晴苺」について、もも、ぶどうの販売ルートを生かし、首都圏等でのブランド確立を目指す。

キャベツ、たまねぎについては、加工・業務用野菜としての期待が高まっていることから、収益性の高い土地利用型野菜として重点的に産地化を図る。

2 基幹品目

きゅうり、はくさい、レタス、ねぎ、だいこん

本県野菜産地の基幹的な5品目を選定し、地域の特性を生かした産地の維持・拡大を図る。

3 地域推進品目

重点品目及び基幹品目以外で、市町村等が地域の推進品目として位置づけを行うなど、地域が一体となって振興する品目を地域推進品目として振興する。

IV 生産目標

区分	品目	現状 (R4)		目標 (R10)			
		栽培面積 (ha)	生産量 (t)	栽培面積 (ha)	生産量 (t)	対比 (R10/R4)	
						栽培面積 (%)	生産量 (%)
重点品目	なす	125	4,950	125	5,000	100	101
	冬春	20	1,960	20	1,990	100	102
	夏秋	105	2,990	105	3,010	100	101
	トマト	108	5,760	110	5,900	102	102
	アスパラガス	60	312	65	350	108	112
	いちご [*]	23	904	26	1,125	114	124
	キャベツ	334	12,700	340	13,600	102	107
	加工・業務用 ^{**}	141	4,767	155	6,200	110	130
	たまねぎ	148	4,510	150	6,000	101	133
	加工・業務用 ^{**}	43	1,038	55	2,200	128	212
基幹品目	きゅうり	76	2,780	77	3,040	101	109
	はくさい	251	13,000	251	13,370	100	103
	レタス	93	2,220	95	2,260	102	102
	ねぎ	155	2,250	160	2,315	103	103
	だいこん	223	7,990	223	8,050	100	101

農林水産省統計情報部調べ

※いちごの栽培面積は農産課調べ

※※キャベツ、たまねぎの加工・業務用は、全農岡山県本部農産・園芸部調べ
(当該年度出荷分)

○品目別振興方針

重点品目

なす

(冬春) ～品質日本一のブランド維持・向上～

(夏秋) ～水田の高収益作物として県内全域で生産拡大～

1 県内の主な産地 (R4年度 県農産課調べ)

岡山市 (34ha)、真庭市 (13ha)

2 生産状況 (農林水産統計)

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積 (ha)	131	126	124	124	125	95.4%
うち冬春	23	21	21	21	20	87.0%
うち夏秋	108	105	103	103	105	97.2%
生産量 (t)	4,890	5,130	4,890	5,100	4,950	101.2%
うち冬春	2,420	2,350	2,270	2,330	1,960	81.0%
うち夏秋	2,470	2,780	2,620	2,770	2,990	121.1%
産出額 (億円)	20	19	19	18	—	—%

3 主な出荷先 (R4年 全農岡山県本部取扱)

京浜	京阪神	県内	中四国	直販	合計
470t (18.5%)	1,129t (44.5%)	647t (25.5%)	82t (3.2%)	212t (8.3%)	2,539t (100%)

※ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

4 特長

- ・県内はもとより、京阪神、京浜など広く出荷されており、県産野菜を代表する品目の一つである。
- ・天敵利用等 IPM 技術の普及により、化学農薬の使用量が減少している。

(冬春なす)

- ・環境制御技術 (炭酸ガス施用等) が普及しつつある。

(夏秋なす)

- ・秋冬の品目との複合経営が可能な水田利用野菜である。

〈振興方針〉

- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大

(冬春なす)

- ・単為結果性品種の導入等による省力化の推進
- ・環境制御技術等の導入による収量・品質の向上

(夏秋なす)

- ・水田の畑地化による作付け推進
- ・日射制御型拍動自動かん水装置等による省力化や低コスト生産体制の取組支援
- ・輪作、土壌消毒による土壌病害虫対策の徹底



重点品目

トマト

～年間を通じた高品質なトマトの安定出荷～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

高梁市（22ha）、新見市（15ha）、真庭市（8ha）

2 生産状況（農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	115	104	99	102	108	93.9%
生産量(t)	4,650	4,710	5,750	5,100	5,760	123.9%
産出額(億円)	19	16	22	20	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

京阪神	県内	中四国	直販	合計
776t (43.3%)	923t (51.5%)	58t (3.2%)	36t (2.0%)	1,793t (100%)

4 特長

- ・ 県中北部の夏秋トマトを中心に、県産野菜の中で最大の産出額を占めており、生産団地の整備により今後も拡大が期待される品目である。
- ・ 共同選果、予冷体制の整備により市場から高く評価されている。
- ・ 養液土耕システムやマルハナバチなどの省力化技術が導入されている。
- ・ 産地独自のブランド確立や収量増加に向けた現地実証等の取組が活発である。
- ・ 県南部の冬春トマトでの企業参入が進んでいる。

〈振興方針〉

- ・ 担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・ 生産団地の整備や省力化・安定生産技術の導入による出荷量の増加
- ・ 高温対策と品種特性に合わせた栽培管理による9月以降の出荷量の増加



重点品目

アスパラガス

～県内全域への生産拡大と県産ブランドの地位確立～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

美作市（7ha）、津山市（7ha）、矢掛町（6ha）

2 生産状況（農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	63	61	59	59	60	95.2%
生産量(t)	311	324	332	343	312	100.3%
産出額(億円)	3	3	4	4	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

京阪神	県内	中四国	直販	合計
49t (41.9%)	55t (47.0%)	1t (0.9%)	12t (10.3%)	117t (100%)

※ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

4 特長

- ・各地域に選果場が整備され、水田転作作物として、県内全域で生産拡大が進んでいる。
- ・県内及び京阪神を中心に出荷されており、販売単価が安定している。
- ・施設栽培（雨よけ等）の実証が進み、収量増加が期待される。
- ・日射制御型拍動自動かん水装置の導入が進んでいる。

〈振興方針〉

- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・軽量で取り組みやすい品目として、幅広い年代の生産者や集落営農への作付け推進
- ・水田転作作物として、水田での作付け推進
- ・施設栽培（雨よけ等）の拡大による収量・品質の向上



重点品目

いちご

～「くだもの王国おかやま」の冬のくだものとしてブランド確立～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

岡山市（8.9ha）、赤磐市（1.9ha）、倉敷市（1.7ha）

2 生産状況（県農産課調べ、農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	20.2	20.6	21.2	21.1	22.8	112.9%
産出額(億円)	11	12	11	10	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

京浜	県内	中四国	直販	合計
6.5t (8.7%)	55.5t (74.0%)	6t (8.0%)	7t (9.3%)	75t (100%)

4 特長

- ・冬から春に出荷できるいちごは、令和元年産から重点的にブランド化を進めている「晴苺」について、関係機関が一体となって生産振興している。
- ・本県ならではの高品質ないちごブランドの育成と供給体制の確立を図っており「晴苺」については、令和元年産から首都圏への出荷を本格的に開始している。
- ・「くだもの王国おかやま」の冬のくだものとして需要が高く、農業団体を通じた市場出荷のほか、直売所や観光農園など販売チャンネルは多岐にわたっている。

〈振興方針〉

- ・「晴苺」の栽培面積拡大による首都圏への出荷量増大
- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・企業参入による栽培の拡大
- ・環境モニタリングや環境制御技術の導入等による高品質、安定生産技術の確立
- ・県オリジナル品種の育成
- ・年間を通じて多彩で高品質なくだものが提供できる「くだもの王国おかやま」のブランド価値の確立



重点品目

キャベツ

～加工・業務向けの産地育成と周年供給体制の確立～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

瀬戸内市（75ha）、笠岡市（57ha）、岡山市（56ha）

2 生産状況（農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	313	306	305	311	334	106.7%
加工・業務用	85.4	113.5	111	120.3	141.1	165.2%
生産量(t)	11,000	13,000	11,700	11,700	12,700	115.5%
加工・業務用	3,581	5,314	4,049	3,738	4,767	133.1%
産出額(億円)	8	9	9	9	—	—%
加工・業務用	2.1	3.1	2.3	2.0	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

京阪神	県内	中四国	直販	合計
9t (0.2%)	912t (15.3%)	828t (13.9%)	4,220t (70.7%)	5,969t (100%)

※ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

4 特長

- ・県南部から北部にかけて広い地域で栽培でき、周年供給が可能な品目である。
- ・牛窓地域など一部の地域ではブランドが確立されている。
- ・土地利用型野菜として、機械化体系が確立されている。
- ・加工・業務用野菜として、企業参入や集落営農等の多様な経営体による作付け拡大が進んでいる。

〈振興方針〉

- ・加工・業務用の周年安定供給
- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・企業参入や集落営農による水田を活用した加工・業務用栽培の拡大
- ・機械化体系の導入と水田転換畑での栽培推進
- ・実需者ニーズに応じた品種選定
- ・産地PR活動等によるブランド力のさらなる向上



重点品目

たまねぎ

～加工・業務用向けの産地育成～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

笠岡市（39ha）、岡山市（28ha）、高梁市（8ha）

2 生産状況（農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	175	158	130	130	148	84.6%
加工・業務用	38.7	53.3	49.8	31.5	43.0	111.1%
生産量(t)	5,430	6,480	6,340	4,620	4,510	83.1%
加工・業務用	1,054	2,301	2,001	1,457	1,038	98.5%
産出額(億円)	4	4	5	4	—	—%
加工・業務用	0.57	1.23	1.16	0.72	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

県内	中四国	直販	合計
177t 14.6(%)	1t (0.1%)	1,038t (85.4%)	1,216t (100%)

※ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

4 特長

- ・県南部を中心に県内各地に産地が広がっている。
- ・土地利用型野菜として、機械化体系が確立されている。
- ・加工・業務用野菜として、企業参入や集落営農等の多様な経営体による作付け拡大が進んでいる。

〈振興方針〉

- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・企業参入や集落営農による水田を活用した加工・業務用栽培の拡大
- ・機械化体系の導入と水田転換畑での栽培推進
- ・排水対策の徹底と安定生産技術の確立



基幹品目

きゅうり

～単収増による生産拡大～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

久米南町（13ha）、真庭市（10ha）、岡山市（7ha）

2 生産状況（農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	89	80	74	75	76	85.4%
生産量(t)	2,000	2,610	2,590	2,730	2,780	139.0%
産出額(億円)	7	7	9	7	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

京阪神	県内	中四国	直販	合計
137t (13.4%)	802t (78.7%)	78t (7.7%)	1t (0.1%)	1,019t (100%)

※ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

4 特長

- ・水田転作作物として、県中北部を中心に産地が形成されており、共同選果体制が確立されている。また、選果場における農福連携の取組も始まっている。
- ・日射制御型拍動自動かん水装置等の省力化技術が導入されている。
- ・病気に強く、高品質・多収な品種の導入が進んでいる。

〈振興方針〉

- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・日射制御型拍動自動かん水装置やハウス等生産施設の整備
- ・耐病性品種導入による9月以降の出荷量の増加



基幹品目

はくさい

～ブランド力のさらなる向上による産地の維持・発展～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

瀬戸内市（86ha）、岡山市（38ha）、高梁市（17ha）

2 生産状況（農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	281	257	246	252	251	89.3%
生産量(t)	14,200	13,800	13,800	13,700	13,000	91.5%
産出額(億円)	7	8	9	8	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

京浜	京阪神	県内	中四国	直販	合計
32t (0.5%)	1,886t (30.6%)	1,086t (17.6%)	1,571t (25.5%)	1,596t (25.9%)	6,170t (100%)

※ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

4 特長

- ・ 県中南部を中心に県内全域で生産されており、特に牛窓地区ではブランドが確立されている。
- ・ 品質が高く、市場評価が高い。
- ・ 重量野菜で収穫の負担が大きいため、作業受託（収穫支援隊）の活用・拡大による省力化を図っている。

〈振興方針〉

- ・ 担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・ 農作業受託組織と連携した収穫労力の軽減
- ・ 輪作や緑肥の活用等による連作障害対策の推進
- ・ 産地PR活動等によるブランド力のさらなる向上



基幹品目

レタス

～ブランド力のさらなる向上による産地の維持・発展～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

岡山市（46ha）、真庭市（16ha）、笠岡市（8ha）

2 生産状況（農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	80	82	84	81	93	116.3%
生産量(t)	1,180	1,520	1,700	1,620	2,220	188.1%
産出額(億円)	2	3	3	3	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

京阪神	県内	直販	合計
186t (64.6%)	57t (19.8%)	45t (15.6%)	288t (100%)

4 特長

- ・県南部では水田を中心に生産され、複合経営も多い。近年では、県北部において加工・業務用の生産が拡大している。
- ・「藤田レタス」は地域団体商標を取得し、高品質なレタス産地として評価が高い。

〈振興方針〉

- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・水田の畑地化による作付け推進
- ・排水対策の徹底による収量・品質の向上
- ・産地PR活動等によるブランド力のさらなる向上



基幹品目

ねぎ

～新規栽培者の確保によるさらなる産地の拡大～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

岡山市（47ha）、真庭市（14ha）、奈義町（14ha）

2 生産状況（農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	163	154	151	152	155	95.1%
生産量(t)	2,400	2,380	2,070	2,120	2,250	93.8%
産出額(億円)	10	9	9	9	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

京阪神	県内	中四国	直販	合計
33t (9.5%)	224t (64.7%)	9t (2.6%)	80t (23.1%)	346t (100%)

※ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

4 特長

・青ねぎ、白ねぎともに市場出荷のほか契約栽培に取り組んでいる。

（青ねぎ）

- ・県南部を中心に県内各地で生産されており、一部でハウスを導入した周年栽培が行われている。
- ・岡山市の「牧石ねぎ」は、地域団体商標を取得し、年間を通して栽培されており、品質の良さで高評価を得ている。

（白ねぎ）

- ・県北部を中心に生産されており、県内全域で作付けが可能な品目である。
- ・新たに野菜価格安定制度に加入する産地があるなど、規模拡大が進んでいる。

〈振興方針〉

- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・排水対策の徹底による収量、品質の向上
- ・高温や病害虫に強いなど地域に適した品種の選定



基幹品目

だいこん

～ブランド力のさらなる向上による産地の維持・発展～

1 県内の主な産地（R4年度 県農産課調べ）

真庭市（59ha）、岡山市（29ha）、倉敷市（21ha）

2 生産状況（農林水産統計）

区分	H30	R元	R2	R3	R4	R4/H30
栽培面積(ha)	308	264	247	247	223	72.4%
生産量(t)	10,900	9,440	9,730	9,500	7,990	73.3%
産出額(億円)	9	7	10	7	—	—%

3 主な出荷先（R4年 全農岡山県本部取扱）

京阪神	県内	中四国	直販	合計
101t (8.5%)	792t (66.7%)	216t (18.2%)	78t (6.6%)	1,188t (100%)

※ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。

4 特長

- ・県北部の高冷地では夏、秋冬だいこん、県南部では秋冬だいこんが主に栽培されている。
- ・高冷地の蒜山地域では、一定の条件に従い栽培した「蒜山こだわり大根」の付加価値向上に取り組んでいる。

〈振興方針〉

- ・担い手の確保・育成による産地の維持・拡大
- ・土づくりの徹底による収量・品質の向上
- ・産地PR活動等によるブランド力のさらなる向上



○岡山県における野菜価格安定制度の概要

(令和6年3月時点)

事業名		指定野菜価格安定対策事業	特定野菜等供給産地育成価格差補給事業	
			指定野菜供給事業	特定野菜供給事業
事業実施主体		(独)農畜産業振興機構 (公社)岡山県野菜生産安定協会	公益社団法人 岡山県野菜生産安定協会	
事業開始年度		S41(複合H5)	S51(複合H5、中山間H8)	
対象野菜		指定野菜(14品目)	指定野菜(14品目)	特定野菜(29品目)
指 定 等	作 付 面 積	葉茎根菜：20ha 夏秋果菜：12ha 冬春果菜：8ha	葉茎根菜：※10ha 果 菜：※5ha	※5ha (一部軟弱野菜：※3ha)
	複合産地 育成型 (注1)	葉茎根菜：16ha 夏秋果菜：10ha 冬春果菜：6ha	葉茎根菜：※7ha 果 菜：※3ha	※5ha (一部軟弱野菜：※3ha)
	中山間産地 育成型 (注2)	—	葉茎根菜：※5ha 果 菜：※3ha	—
	登 録 生産者等	※2ha	※2ha	※1.5ha (一部軟弱野菜：※1.5ha)
要 件	共同出荷 割合等	2/3以上 ・共同出荷面積が50ha(夏秋果 菜：30ha、冬春果菜：20ha) 以上でかつ出荷単収要件を満 たす場合、共同出荷割合は、 1/2以上に緩和	※1/2以上 ・相当規模生産者を含む共同 出荷組織が産地強化計画策定 の場合は1/3以上に緩和	※2/3以上 ・複合型※1/2以上に緩和 ・相当規模生産者を含む共同 出荷組織が産地強化計画策定 の場合は1/3以上に緩和
	需給調整	重要野菜及び調整野菜は、緊急 需給調整事業(市場隔離等)へ 加入していること(注3)	重要野菜及び調整野菜は、緊急 需給調整事業(市場隔離等)へ 加入していること	—
価格安定制度 実施産地数		10産地 (複合2)	17産地 (複合6、中山間1)	12産地 (複合2)
岡山県での 対象野菜 (種別)		キャベツ(冬)、だいこん(夏、秋 冬)、トマト(夏秋)、はくさい (秋冬)レタス(春、冬)、なす (冬春)、たまねぎ 7品目	キャベツ(春、夏秋、冬)、きゅう り(夏秋)、トマト(夏秋)、はく さい(春)、だいこん(春、秋 冬)、にんじん(冬、春夏)、ねぎ (春、夏、秋冬)、なす(夏秋) 8品目	カリフラワー、 しょうが、 すいか、 れんこん、 メロン ※※かぼちゃ、 ※※ブロッコリー、 ※※アスパラガス、 (注5) 8品目
対象市場等 (卸業者数)		京浜、京阪神、岡山等ブロックの対象市場(R5:198市場)		
平均価格		ブロック別中央卸売市場における過去6年間の卸売価格を基に総合卸売物価指数を加味した価格の平均価格		
保証基準額		平均価格×90%	平均価格×90%	平均価格×80%
最低基準額		平均価格×60%	平均価格×60%	平均価格×55%
補てん金額		(保証基準額-平均販売価額) ×0.9(注6)	(保証基準額-平均販売価額) ×0.8	(保証基準額-平均販売価額) ×0.8
負 担 割 合	国 (重要野菜)	600/1000 (650/1000)	50/100	30/90 ※※50/100
	県 (重要野菜)	200/1000 (175/1000)	25/100	30/90 ※※25/100
	市町村	—	—	10/90 ※※8/100
	全農岡山県本部	—	—	6/90 ※※5/100
	生産者 (重要野菜)	200/1000 (175/1000)	25/100	14/90 ※※12/100

注1) 複合産地育成型とはその地区が既に他の産地として指定(選定)されているか、その地区を他の産地と一緒に指定しようとするものであること。

注2) 中山間地域育成型とは特定農山村法等の指定を受けかつ林野率がおおむね50%以上の地域。

注3) 重要野菜・・・秋冬だいこん、秋冬はくさい、たまねぎ、キャベツ
調整野菜・・・春だいこん、夏だいこん、にんじん、春はくさい、夏はくさい、レタス

注4) 表中の数字の前の「※」はおおむねのことである。

注5) 「※※」は特定野菜のうち、輸入野菜と競合している又は競合が見込まれる野菜で、野菜自給率向上の観点から重要な野菜。

注6) 産地区分や特別補給交付金等の交付選択により、1.0~0.7と補てん率が異なる

○本県の指定産地、特定産地一覧

野菜生産出荷安定法に基づく指定産地

(野菜指定産地10産地)

関係 県民局	対象野菜	産地名	産地の区域	指定年度	対象出荷団体
備 前	秋冬はくさい	岡山	岡山市、瀬戸内市 玉野市、吉備中央町	S52	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	冬キャベツ	岡山	岡山市、玉野市 瀬戸内市	S50	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	たまねぎ	岡山	岡山市、瀬戸内市 玉野市、吉備中央町	S47	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	冬春なす	岡山	岡山市、玉野市	S52	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	春レタス	岡山	岡山市、瀬戸内市	S52	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	冬レタス	岡山	岡山市、瀬戸内市	H15	岡山市農協 晴れの国岡山農協
備 中	夏秋トマト	阿新	新見市	S45	晴れの国岡山農協
	夏秋トマト	備北	高梁市、吉備中央町	S41	晴れの国岡山農協 岡山市農協
美 作	夏だいこん	真庭	真庭市	S41	晴れの国岡山農協
	秋冬だいこん	真庭	真庭市	S52	晴れの国岡山農協

特定野菜等野菜供給産地育成価格差補給事業
 (指定野菜供給産地 17産地)

関係 県民局	対象野菜	産地名	産地の区域	指定年度	対象出荷団体
備 前	春だいこん	岡山	岡山市	H13	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	秋冬だいこん	岡山	岡山市	H15	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	夏秋なす	あかいわ	岡山市、玉野市、 赤磐市、和気町	H13	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	春夏にんじん	岡山	岡山市	H8	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	冬にんじん	岡山	岡山市	H8	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	春ねぎ	岡山	岡山市	H22	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	夏ねぎ	岡山	岡山市	H13	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	秋冬ねぎ(青)	岡山	岡山市	H13	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	春はくさい	岡山	岡山市、瀬戸内市	H15	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	春キャベツ	岡山	岡山市、瀬戸内市	H24	岡山市農協
美 作	夏秋キャベツ	真庭	真庭市	H22	晴れの国岡山農協
	冬キャベツ	真庭	真庭市	H22	晴れの国岡山農協
	夏秋きゅうり	勝英	津山市、美作市、 勝央町、奈義町、 鏡野町、久米南町、 美咲町	H15	晴れの国岡山農協
	春だいこん	東栗倉	美作市	H7	晴れの国岡山農協
	夏秋トマト 夏秋ミニトマト	真庭	真庭市、新庄村	S52	晴れの国岡山農協
	秋冬ねぎ(白)	勝英	奈義町、津山市、 勝央町、美作市	H14	晴れの国岡山農協
	秋冬ねぎ(白)	真庭	真庭市	R2	晴れの国岡山農協

(特定野菜供給産地12産地)

関係 県民局	対象野菜	産地名	産地の区域	指定年度	対象出荷団体
備 前	かぼちゃ	岡山	岡山市	S52	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	かぼちゃ	瀬戸内	瀬戸内市	S52	岡山市農協
	カリフラワー	岡山	岡山市、瀬戸内市	S52	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	すいか	瀬戸内	瀬戸内市	S53	岡山市農協
	ブロッコリー	岡山	岡山市	H3	岡山市農協 晴れの国岡山農協
	ブロッコリー	瀬戸内	瀬戸内市	S56	岡山市農協
	メロン(温室メロンを除く)	瀬戸内	瀬戸内市	S52	岡山市農協
	れんこん	岡山	岡山市、玉野市	S53	岡山市農協 晴れの国岡山農協
備 中	アスパラガス	矢掛	矢掛町	H26	晴れの国岡山農協
美 作	アスパラガス	勝英	奈義町、勝央町、 美作市、西粟倉村、 鏡野町、津山市、 美咲町、久米南町	H16	晴れの国岡山農協
	しょうが	つやま	津山市、鏡野町、 美咲町	S53	晴れの国岡山農協
	ブロッコリー	つやま	津山市	H22	晴れの国岡山農協